

令和7年度 出前講座一覧

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材	
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
1	<u>グリーン社会実現に貢献する国総研の研究</u> グリーン社会(脱炭素社会、気候変動適応社会、自然共生社会、循環型社会)の実現のため、国総研が行っている研究内容とその研究成果について紹介します。	(グリーン社会実現研究推進本部事務局) 企画部 インフラ情報高度利用技術研究官	大城 温	30～120分 (ご要望に応じて調整します)							○	○	行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ
2	<u>みんなの暮らしに役立ち みんなの環境を守る道路</u> 道路には暮らしを支えるさまざまな役割があり、役割を果たしながら生活環境・自然環境・地球環境を守るための工夫をしています。どのような工夫があるのかをわかりやすく紹介します。	企画部 インフラ情報高度利用技術研究官	大城 温	30～60分 (ご要望に応じて調整します)			○	○	○					全国	○	パソコン用プロジェクタ
3	<u>国総研の仕事</u> 国土技術政策総合研究所(国総研)では、社会や経済活動、国民の生活を支える基盤となる施設や設備(上下水道、河川、道路、建築・住宅等)であるインフラ(インフラストラクチャー)に関する研究を行っています。 インフラにはどのような役割があり、どのような研究を行っているかを紹介します。キャリア学習として、他の研究所などと連携した紹介も可能です。	企画部 主任研究官	濱田 悠貴 長屋 和宏	45～50分(ご要望に応じて調整します)	○	○	○	○	○	○				全国	○	パソコン用プロジェクタ
4	<u>災害から身を守るために</u> 今後発生が予測される首都直下地震や南海トラフ巨大地震等の地震災害や様々な災害に遭わないようにするための備えなどについて、紹介します。講座では、近年に発生した災害事例や備えるべき災害、国土交通省の取り組みなどもご紹介します。小・中学校における防災単元(防災マップなど)やゲームを使った児童・生徒を対象とした講座、学校の先生や地域の方々を対象とした講習会等にも対応します。【つくば科学教育マイスター】	企画部 主任研究官	長屋 和宏		○	○	○	○	○	○	○			全国		パソコン用プロジェクタ
5	<u>まちを浸水から守るには下水道の役割</u> 下水道は家庭や工場から排出された下水をきれいに処理するだけでなく、まちを浸水から守る役割を果たしています。 さまざまな実例を紹介しながら、まちを浸水から守るにはどうしたらよいか意見交換をします。	下水道研究部 下水道研究室 室長	安田 将広	45分～60分			○	○	○	○	○			全国		パソコン用プロジェクタ
		下水道研究部 下水道研究室 主任研究官	松浦 達郎													
6	<u>下水がきれいになるまで ～下水処理の仕組みと役割～</u> 下水道は、家庭から出る排水などを処理するだけでなく、洪水の防止、川や湖の水質保全、都市の水循環などで重要な役割を果たしています。 本講座では、下水がきれいになる仕組みをわかりやすく解説します。	下水道研究部 下水処理研究室 室長	重村 浩之				○	○	○	○	○			全国		パソコン用プロジェクタ
		下水道研究部 下水処理研究室 主任研究官	太田 太一													
		下水道研究部 下水処理研究室 主任研究官	平出 亮輔													
		下水道研究部 下水処理研究室 主任研究官	清水 雅弘													
7	<u>どこでも飲める水道水ー浄水処理の仕組み</u> 我が国は、蛇口から出る水道水をそのまま飲むことができる、世界でも数少ない国の一つです。 本講座では、河川水などの汚れた水を、飲む水にまできれいにする浄水処理の仕組みを紹介します。	上下水道研究部 浄水処理研究室 室長	島崎大				○	○	○	○	○			全国		パソコン用プロジェクタ
		上下水道研究部 浄水処理研究室 主任研究官	三好太郎													
		上下水道研究部 浄水処理研究室 研究官	門屋俊祐													
8	<u>デジタルツインで流域治水を進化させる！</u> 最新のDX技術を活用した洪水予測の高度化や、わかりやすい洪水リスクの伝え方、流域治水を支援するための取り組みを紹介します。また、サイバー空間で河川流域を再現し、実証実験を行うことができる「流域治水デジタルテストベッド」を紹介します。	河川研究部 水防災システム研究官	竹下 哲也	30分～90分						○	○	高等専門学校 行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタまたは大型モニター (できればHDMI接続)	
		河川研究部 水循環研究室長	山本 陽子													
		河川研究部 水循環研究室 主任研究官	諸岡 良優													
		河川研究部 水循環研究室 研究官	小沢 嘉奈子													

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材									
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他												
9	<u>海岸を守る技術</u> わが国の海岸には、侵食の激化、高潮・津波災害の恐れなどから、依然として防護が必要な箇所が多数あり、その対策が必要とされています。一方、海岸は生物にとっても貴重な場であり、環境と調和した海岸保全が求められています。本講座では、海岸の現状とともに、侵食や高潮、津波などに対する海岸の保全技術や衛星画像を用いた海岸線のモニタリングについて紹介します。	河川研究部 海岸研究室 室長	柴田 亮	60分程度									全国	○	パソコン用プロジェクタ									
		河川研究部 海岸研究室 主任研究官	姫野 一樹				○	○	○	○	○													
		河川研究部 海岸研究室 主任研究官	浜口 耕平																					
10	<u>ダム</u> の役割 山の中に佇む巨大な構造物、ダム。ダムは、洪水の調節や、水道水の供給等で重要な役割を果たしています。本講座では、ダム型式、機能や活用等の基本情報の他、どのようにダムを維持管理しているか等のダムの内側をわかりやすく解説します。	河川研究部 大規模河川構造部研究室 室長	櫻井 寿之	30分									全国	○	パソコン用プロジェクタ									
		河川研究部 大規模河川構造部研究室 主任研究官	金縄 健一				○	○	○	○														
11	<u>土砂災害に遭わないために</u> 土砂災害とは、土砂災害に遭わないためには、あるいは土砂対策にはどのようなものがあるか、等について分かりやすく説明します。	土砂災害研究部 砂防研究室 室長	鈴木 啓介										行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタおよびオンライン通信可能機材								
		土砂災害研究部 砂防研究室 主任研究官	高原 晃宙																○	○	○	○	○	
		土砂災害研究部 砂防研究室 研究官	海老原 友基																					
12	<u>道路交通調査の新たな展開</u> 365日24時間の交通データの収集を基本とする道路交通調査について、取り組みを支える旅行速度及び交通量の常時観測の方法及び観測したデータの活用方法について紹介します。	道路交通研究部 道路研究室 室長	土肥 学	60分									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ								
		道路交通研究部 道路研究室 主任研究官	尾崎 悠太																				○	○
		道路交通研究部 道路研究室 主任研究官	瀧本 真理																					
13	<u>道路の幾何構造基準について</u> 道路は市民生活や経済活動を支える最も基礎的な社会資本であり、交通機能のほか、ライフラインの収容空間など、極めて重要な役割を担っています。本講座では、道路を新設・改築する場合における一般的技術的基準である道路構造令について紹介します。	道路交通研究部 道路研究室 室長	土肥 学	60分									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ								
		道路交通研究部 道路研究室 主任研究官	田中 良寛																				○	○
14	<u>道路の交通容量について</u> 諸外国と比較して日本の都市間連絡速度は低く、道路ネットワーク全体のサービス向上が求められています。本講座では、道路を設計する際の交通容量の考え方、ボトルネックの交通状況の評価、求められるサービスレベルを確保する道路計画の考え方等について紹介します。	道路交通研究部 道路研究室 室長	土肥 学	60分									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ								
		道路交通研究部 道路研究室 主任研究官	河本 直志																				○	○
15	<u>安全で快適な自転車利用環境について</u> 健康増進や環境への意識の高まり、さらには新型コロナウイルス感染症の拡大を受けた生活スタイル・社会の変化によって、自転車利用のニーズが一段と高まっています。これを受け、自転車が安全で快適な自転車利用環境を形成することが求められています。その中でも重要な、自転車通行空間について、その構造や、整備の進め方について紹介します。	道路交通研究部 道路交通安全研究室 室長	大橋 幸子	30分～90分	○	○	○	○	○	○	○	○	行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ								
		道路交通研究部 道路交通安全研究室 主任研究官	藤田 裕士																					
16	<u>幹線道路の交通安全対策</u> 幹線道路における交通事故は、特定の箇所集中して発生しているという特徴があります。このような箇所や、潜在的な危険箇所を交通事故のデータやETC2.0プローブ情報を用いて抽出し、事故や危険事象の発生状況に応じた対策の立案・実施を行っています。こうした一連の交通安全対策の進め方や、支える技術を紹介します。	道路交通研究部 道路交通安全研究室 室長	大橋 幸子	30分～90分									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ								
		道路交通研究部 道路交通安全研究室 主任研究官	島崎 秋伸																				○	○
17	<u>通学路・生活道路における道路からの交通安全対策</u> 通学路や生活道路の交通安全を求める意識が高まっています。本講座では、生活道路における道路からの事故対策について、現在進められている取組みと、各種データ等を活用した対策の立案手法、ハンプ・狭窄部・屈曲部の設置計画手法やその導入事例などを紹介します。	道路交通研究部 道路交通安全研究室 室長	大橋 幸子	30分～90分	○	○	○	○	○	○	○	○	行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ								
		道路交通研究部 道路交通安全研究室 主任研究官	山下 英夫 藤田 裕士																					

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材							
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他										
18	<u>良好な道路環境の創造に向けて</u> 良好な道路環境の創造に向けた、以下の取組や技術を紹介します。 ・沿道環境の保全(騒音の低減・大気質の保全) ・自然環境の保全(動植物・生態系・景観等の保全) ・地球環境の保全(温室効果ガスの排出削減・吸収等)	道路交通研究部 道路環境研究室 室長	橋本 浩良	30分～60分									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ						
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	澤田 泰征																			
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	長濱 庸介					○	○													
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	大河内 恵子																			
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	根津 佳樹																			
19	<u>無電柱化の低コスト化・スピードアップに向けて</u> 国土交通省では、「防災」、「安全・円滑な交通確保」、「景観形成・観光振興」の観点から無電柱化を推進しています。無電柱化による効果、低コスト化やスピードアップのための技術、合意形成の進め方、国内・海外事例等を紹介いたします。	道路交通研究部 道路環境研究室 室長	橋本 浩良	30分～60分									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ						
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	澤田 泰征																			
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	大河内 恵子			○	○	○	○													
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	長濱 庸介																			
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	根津 佳樹																			
20	<u>安全・安心、賑わい、自然環境など多様なニーズに応える道路空間形成</u> 歩行者、自転車、自動車、沿道地域、自治体からの多様なニーズに応える道路空間形成の取組が行われています。本出前講座では、令和2年2月に創設された歩行者利便増進道路の指定制度(ほこみち)や令和4年3月に国土交通省から公表された多様なニーズに応える道路のガイドラインの概要やパークレットなどの近年のカーブサイドの利活用事例を紹介するとともに、多様なニーズに応える道路空間の再編、道路空間におけるグリーンインフラの導入を支える技術を解説します。	道路交通研究部 道路環境研究室 室長	橋本 浩良	30分～60分									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ						
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	大河内 恵子																			
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	長濱 庸介																			
		道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官	根津 佳樹																			
21	<u>自動運転の実現に向けて</u> 国総研では、道路からの情報提供により安全で円滑な自動運転を実現することを目的とした研究を行っています。本講座では、自動運転の実現に向けた民間での技術開発や国での法整備の状況と合わせて、国総研での研究開発動向を紹介いたします。	道路交通研究部 高度道路交通システム研究室 室長	中川 敏正	60分			○	○	○	○	○		全国	○	パソコン パソコン用プロジェクタ インターネット通信環境							
		道路交通研究部 高度道路交通システム研究室 主任研究官	松原 朋弘																			
22	<u>道路交通の実態把握(ETC2.0プローブ情報の収集・活用)</u> 国土交通省では、車両の走行履歴(一定間隔の走行位置や折進した際の位置を示す情報など)や挙動履歴(急ブレーキの発生位置を示す情報など)といった情報を個人を特定できない形で収集し、道路交通に関する課題の把握や施策の検討などに活用しています。 本講座では、こういった情報の収集から活用に関する研究開発動向などを紹介します。	道路交通研究部 高度道路交通システム研究室 室長	中川 敏正	60分			○	○	○	○	○		全国	○	パソコン パソコン用プロジェクタ インターネット通信環境							
		道路交通研究部 高度道路交通システム研究室 主任研究官	今野 新																			
23	<u>橋を守る(道路橋の維持管理)</u> 道路橋の維持管理に関連して、今、橋がどのような状態に置かれているかを説明した上で、今後取り組むべき課題(点検、診断、補修補強など)について、橋の損傷原因やそのメカニズムを織り交ぜながら説明します。 橋の維持管理の重要性をわかりやすく説明する一般向けの講義と、橋の維持管理の実務者向けの講義を用意しております。	道路構造物研究部 橋梁研究室 室長	白戸 真大																			
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	岡田 太賀雄																			
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	瀧本 耕大															○	○	○	○	○
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	松藤 洋照																			
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	今城 由貴																			
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	横井 芳輝																			

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他			
24	橋をつくる(道路橋の設計と施工) 道路橋の設計・施工に関連して、橋の形式とその特徴や歴史などの紹介から、橋梁の設計の考え方、架設方法など施工に関する技術の紹介を図や写真などを用いてわかりやすく紹介します。 橋の構造などをわかりやすく説明する一般向けの講義と、設計や品質管理などに関する技術を解説する実務者向けの講義を用意しております。	道路構造物研究部 橋梁研究室 室長	白戸 真大										全国	○	パソコン用プロジェクト
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	岡田 太賀雄												
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	瀧本 耕大				○	○	○	○	○				
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	松藤 洋照												
		道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官	今城 由貴												
25	道路構造物のアセットマネジメント 道路ネットワークを支える道路構造物の性能を決める技術基準とアセットマネジメントの全体像および関連の施策の動向について受講者の属性や目的に応じて最新情報を交えて講義します。	道路構造物研究部 道路構造物機能復旧研究官	玉越 隆史		○	○	○	○	○	○	○	○	全国	○	パソコン用プロジェクト
26	道路構造物の技術基準と法定点検 道路橋を中心に、法定点検の趣旨と実施方法や留意点などについてわかりやすく解説します。 また、法定点検の適切な運用と品質向上のために、道路橋の構造特性や劣化特性、関連の設計技術基準などについて、土木系の大学・高校の学生、教員、社会人実務者(道路管理者、コンサルタント)など対象に応じてわかりやすく解説します。	道路構造物研究部 道路構造物機能復旧研究官	玉越 隆史						○	○	○	土木系大学生・大学院生 行政関係者 建設コンサルタント 点検従事者	全国	○	パソコン用プロジェクト 架橋現場での説明会形式による実施も可能です(機材等は条件により応談)
27	建築物における音環境性能の現状と課題 特に集合住宅では隣や上階からの騒音(音環境性能)が問題となることが多くなっています。そこで、音環境性能に関する現状、基準や設計指針、対策手法等の現状や課題について紹介します。	建築研究部 設備基準研究室 主任研究官	平川 侑								○		全国	○	パソコン用プロジェクト
28	今日からやろう！お家や学校でできるエコアクション 住宅やビル(事務所や学校等)では、エアコンや照明等により沢山のエネルギーが使われています。しかし、日々の生活において、何にどの程度のエネルギーが使われているかを意識することはあまりありません。この講義では、そもそもエネルギーとは何でどこから来ているのか、実際の住宅やビルにおいて何がエネルギーを使っているのか、省エネルギー化(エコアクション)のためには何をすればよいのかをクイズ形式(小学校低学年向け)・実験形式(小学校高学年以上向け)で学びます。	住宅研究部 住宅ストック高度化研究室 室長	宮田 征門	45分～120分	○	○	○	○	○	○	○	一般市民	全国	○	パソコン用プロジェクト
29	建て替えられない状況を改善する ～まちづくり誘導手法による密集市街地整備～ 密集市街地の街区内部(アン)は狭隘道路と狭小敷地で構成されているため、建築物を建て替えようとする建築基準法の集団規定(接道義務、道路斜線制限、建ぺい率制限等)に適合させることが困難な場合が多く見られ、結果的に建て替えが進みにくいケースも見受けられます。しかし、街並み誘導型地区計画、建ぺい率特例許可、連担建築物設計制度等の各種のまちづくり誘導手法を活用した建築物の建て替え誘導、促進に取り組み、地区の防災性向上に効果を上げている例があります。本講座では、密集市街地において、まちづくり誘導手法を活用して建て替えを促進する方法について、具体事例を交えつつ紹介します。	都市研究部長	勝又 済									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクト 参考資料:国総研資料 No.1076『密集市街地整備のための集団規定の運用ガイドブック ～まちづくり誘導手法を用いた建替え促進のために～【令和元年6月改定版】』 ((国総研HP https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn1076.htm)からダウンロード可)
30	密集市街地のまちづくり 我が国には地震時等に著しく危険な密集市街地が全国で約2,200ha(令和2年)存在し、これらを令和12年に概ね解消することが新たな「住生活基本計画(全国計画)」(令和3年3月19日閣議決定)の目標に掲げられています。本講座では、密集市街地は何か問題なのか、どのような地域に分布しているのか、どのような特徴があるのか等、密集市街地の実態について解説するとともに、問題を解決するためのまちづくり方策について、実際の取り組み事例を交えつつ紹介します。	都市研究部長	勝又 済							○	○	一般市民	全国	○	パソコン用プロジェクト

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材				
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他							
31	交通ビッグデータ等の新技術を活用した、都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの考え方 携帯電話基地局データなどの信頼性の高い「交通ビッグデータ」の活用により、都市における人の流動が高度に把握・予測できるようになってきており、また一方で、自動運転などの新技術により、持続可能な全く新しいモビリティネットワークが計画・構築できるようになってきているなど、多様なニーズを踏まえた暮らしやすい都市づくりに貢献するツール環境が近年急速に整ってきています。そこで、これらの要素技術の可能性とあわせ、持続可能な都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの方向性についてご紹介します。	都市研究部 都市施設研究室 室長	新階 寛恭										○	関東周辺	○	パソコン用プロジェクトまたは大型モニター（できればHDMI接続）、レーザーポインタ			
32	統計データと地図でみる都市構造の変遷 人口減少期において財政制約や環境負荷制約が高まる中、持続可能な都市の形態の1つとして集約型都市構造への転換が求められています。自分たちが暮らす街がどのような構造なのか、国勢調査による人口の分布や商業統計による販売額の分布などの各種統計データと地図を使って1970年代から現在までの変遷を紹介します。	都市研究部 都市計画研究室 室長	石井 儀光						○	○	○			全国	○	パソコン用プロジェクト			
33	携帯型情報端末を使った応急危険度判定支援 地震後の二次被害を軽減するため、応急危険度判定は重要な役割を担っています。大規模地震後の判定活動において調査表入力を支援するための「応急危険度判定支援ツール」の使用手法と、判定結果を迅速に集計・地図化する方法を紹介します。	都市研究部 都市計画研究室 室長	石井 儀光										行政関係者 建築士	全国	○	パソコン用プロジェクト			
34	都市建築の経済と時事問題 都市建築の経済（経済的観点からみた都市建築・社会資本等）に関連する時事的課題としてのトピック（公共投資の動向・効果、都市の競争力（ランキング等）、不動産価格動向等）を採り上げ、各種経済報告（月例経済報告、GDP統計、日銀短観や各種経済指標等）などとの関連を見ながら社会経済の動向を考察します。	都市研究部 都市計画研究室 特任研究官	小俣 元美								○			全国		パソコン用プロジェクト			
35	住まいとまちの水害対策 近年の水害の頻発化・激甚化などから「流域治水」への政策転換が図られ、河川施設や下水道施設の整備などの対策に加えて、浸水リスクの高い地域での住まい方の工夫や建築・土地利用の規制・誘導などの、建築・都市分野での対策が重要な役割を担いつつあります。このような住まいとまちの水害対策への社会的要請が高まっている状況の背景や考え方、実施されている様々な取組み、今後に向けた課題などについて紹介いたします。	都市研究部 都市防災研究室 研究官／国総研シニアフェロー	木内 望									○	一般市民 行政関係者 建築関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト			
36	まちなかの各種パブリックスペース・モビリティの役割と有機的連携によるエリア価値向上の可能性 ～地域資源を活かしたライフスタイル提案型のアーバンデザイン～ まちなかの街路、広場、公園、河川、公共空地等のパブリックスペースは、誰に対しても開放された空間であり、人々の生活動線、多様な活動の拠点、周辺の土地利用促進、日々の営みの中での都市文化・地域性の醸成への貢献など、滞在者にとって重要な役割を担っています。また、まちなかのモビリティも重要で、近年はBRTやグリーンスローモビリティなど、様々な地域の資源や人々を繋ぐ新たな公共交通が普及しつつあります。それぞれの施設・機能の特性と、近年の全国における官民連携による空間再編プロジェクトの動きをふまえて、物理面、活動面、心理・社会面等からみた具体の役割を紹介するとともに、今後の効果的なまちづくりの展開として、有機的連携効果の活用方策と、継続的な実施による波及・相乗、そしてエリア価値向上への展開可能性について紹介します。	都市研究部 都市施設研究室 主任研究官	小笠原 裕光		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一般市民 行政関係者 まちづくり団体 民間技術者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト
37	ABP Challenge (Activity Based Planning Challenge) ～新たな交通行動分析手法を活用した都市交通プランニングの実現戦略～ 国総研では、都市生活者の個人単位の1日の活動・移動を再現し交通行動の将来シナリオ分析等が可能なアクティビティ・ベースド・シミュレータ（ABS）を活用し、Well-beingと持続可能性を両立した都市交通のプランニングを実現するため、全国の自治体・民間・大学等の関心層と取り組む共創プロジェクトに取り組んでいます。プロジェクトの解説と現在の到達点、そして近未来のマスタープランニングのあり方について紹介します。	都市研究部 都市施設研究室 主任研究官	小笠原 裕光									○	○	○	○	一般市民 行政関係者 まちづくり団体 民間技術者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト
38	多様なストック効果等を考慮した公共事業評価に向けて 防災、減災、医療、安全、定住、産業、雇用、所得等、既往事業における多様なストック・フロー効果の実例を紹介しつつ、多様なストック効果等を考慮した公共事業評価手法に関する研究開発等の取組を紹介します。	社会資本マネジメント研究センター 社会資本マネジメント研究室 室長／主任研究官	松田 奈緒子 田嶋 崇志	約1時間								○	行政関係者	全国		パソコン用プロジェクト			
39	多様な入札・契約方式の活用に向けて 国土交通省で多く採用される総合評価落札方式の他、技術提案・交渉方式、事業促進PPP、災害復旧における随意契約・指名競争入札、フレームワーク方式等、多様な入札・契約方式の概要、活用事例、導入にあたっての留意点等をわかりやすく解説します。	社会資本マネジメント研究センター 社会資本マネジメント研究室 室長／主任研究官	松田 奈緒子 田嶋 崇志	約1時間									行政関係者 建設業界関係者	全国		パソコン用プロジェクト			

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材	
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
40	積算の合理化と今後の方向 公共土木工事の契約条件や価格算定条件の明確化・合理化を図るために構築し運用を行っている「新土木工事積算大系」や近年の積算の合理化の取組みについて解説します。また、要望に応じて「施工パッケージ型積算方式」など重点的に説明します。	社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研究室 室長／主任研究官	堤 達也 櫻井 真	1～2時間程度									行政関係者 など	全国		パソコン用プロジェクト
41	ICT活用工事に関わる基準類及び施工データ活用による現場マネジメント(ICT施工Stage II)の解説 本講座では、これからICT導入を検討されている自治体・施工会社の方や、ICT導入で変わる建設産業に興味のある学生等を対象に、ICT活用工事に係わる基準類の内容や改定経緯、施工データの見える化による施工管理の改善の取組、ICT導入で期待される効果等について説明します。 なお、ご要望により、重点的に説明する内容を調整します。(内容により2名で対応する場合もあります。)	社会資本マネジメント研究センター 社会資本施工高度化研究室 室長	杉谷 康弘	約1時間							○	○	行政関係者 建設業界関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト、(パワーポイントをインストールしたパソコンがあれば、なお良い)
		社会資本マネジメント研究センター 社会資本施工高度化研究室 主任研究官	桐井 健一 二宮 建													
42	BIM/CIM原則適用による3次元データの利活用 本講座では、令和5年度からBIM/CIM(Building/Construction Information Modeling, Management)の原則適用に従い、国土交通省が取り組んでいる3次元モデル成果物の作成方法の明確化やBIM/CIM活用業務・活用工事に関する効果について、事例や動画・デモを交えながらわかりやすく説明します。 更に、令和6年度までに策定、改定された直轄土木業務・工事における BIM/CIM 適用において実施又は参照する基準・要領等についても、解説します。	社会資本マネジメント研究センター 社会資本情報基盤研究室 主任研究官	鈴木 淳史	約1時間							○	○	行政関係者 建設業関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト
43	建設分野におけるカーボンニュートラル対策(建設工事現場からの二酸化炭素排出量の把握手法について) 地球温暖化対策のため「二酸化炭素排出量を2050年までに実質ゼロにする」という「カーボンニュートラル」の達成に向け、世界各国、各分野で様々な対策が進められています。日本の二酸化炭素総排出量の約1割を占めると推計されている建設分野においても対応が求められます。 このため国総研は、建設現場からの二酸化炭素排出量を定量的に把握する手法、「インフラ分野における建設時のGHG排出量算定マニュアル(案)」を2024年3月に策定しました。マニュアル(案)の基本理念や算定の考え方、今後の改定見直し等について紹介します。	社会資本マネジメント研究センター 建設経済・環境研究室 主任研究官	原野 崇 布施 純										行政関係者 建設業関係者	全国	○	パソコン用プロジェクト
44	都市空間の魅力の増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出) 都市のサステナビリティや地方創生・都市再生・中心市街地活性化等のために、都市空間の魅力を増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)することへの注目が高まり、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり～ウォークアブルなまちなかの形成～等の取り組みが広がってきています。オープンスペースの居心地の向上や活気・賑わいの創出、補助金に依存しない自律的継続的な民間主導まちづくり活動の支援の仕方、歩行空間の「利用」と「利用を前提としたデザイン」、デザインと事業性の両立などに関する基礎的な考え方について、「十二表法」(紀元前450年頃)から現代まで約2500年間の主要文献をレビューし、国土交通省・UR都市機構・実務者・建築学会・大学・大学院デザイン専攻者等への講義等を行ない、国土交通省「プレイスメイキング・シンポジウム2014」「ストリートデザインガイドライン(2020年3月)」等を政策企画立案・技術支援した担当者をご紹介します。 初学者向け(90分程度、WEB開催可)には筆者レポートを用いるほか、都市デザインに係る行政関係者や社会実験を行なう都市計画コンサルタント等向け(1.5～2.0日、対面)にはプレイスメイキング・景観工学等を社会実装するための基礎的事項に係る座学・実技指導、大学・大学院のデザイン専攻者向け(1コマ程度、対面)には、ウィトル＝ウィウス『建築書』(紀元前30年頃)以降のピオニアのデザイン関連主要文献・論文(芦原義信、ヤン・ゲール、北原理雄、クリストファー・アレグザンダー、イアン・ペントレイ、佐藤圭二、渡和由、鈴木俊治、デビッド・シム、島原万丈など)、英国・NYCのデザインガイドライン等を課題図書とし、実際の記述を確認しながら、具体的な形質・寸法、社会実装の事例、経済効果等について学び、実務に携わるための総合的視点を養います。	社会資本マネジメント研究センター 建設経済・環境研究室 室長	富田 興二								○	○	パブリックスペース・パブリックライフ関係者 都市デザイン関係者 行政関係者・研究者・教育者・出版関係者 大学・大学院デザイン専攻者	全国	○	パソコン、パソコン用プロジェクト、インターネット通信環境、レーザーポインタ(対面の場合) 参考資料: 初学者向け筆者レポートとして、島原万丈、富田興二ほか共著(2015)「Sensuous City[官能都市]ー身体で経験する都市: センシュアス・シティ・ランキング」(9. 都市政策の立脚点は”アクティビティ”である)((LIFULL HOME'S総研HP https://www.homes.co.jp/souken/report/201509/)からダウンロード可)
45	都市の防災性を高める都市公園(防災公園)の整備・管理 私たちの身の回りには都市公園は、平常時は休息やレクリエーションの場などに利用されていますが、地震等の災害時には被害の軽減や避難、救援、復旧・復興活動の場などとして機能を発揮します。その一方、このような機能を十分に発揮させるには、整備・管理それぞれの面における工夫や注意が必要です。このことについて、実際に発生した災害時にみられた例も紹介しながら、具体的な説明を行います。 当室が地域の防災力向上に役立つよう市民 向けに作成した「身近な公園 防災使いこなしブック」の内容も紹介します。	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 室長	小島 孝文	約1時間				○	○	○	○		行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクト

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材	
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
46	街路樹の役割と維持管理 街路樹は、緑陰や良好な景観の形成、生活環境及び自然環境の保全、交通安全、防災など多岐にわたる機能があるほか、地球温暖化問題が深刻となっている現在では都市域の二酸化炭素の吸収源としての役割も期待されています。本講座では、これらの役割について説明するとともに、街路樹を適切に維持するために必要となる点検・診断方法などについて解説します。	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 主任研究官	飯塚 康雄	約1時間								○	一般社会人、 行政関係者、 造園業関係者など	全国		パソコン用プロジェクタ
47	景観まちづくり:身近な景観の評価とデザイン より充実した時間を過ごすための一つの方法として、自分の住むまち、働くまちをよく知るために、まちの歴史と風景の捉え方を紹介します。また、そうした風景を支える景観法や歴史まちづくり法などの説明と、景観まちづくり、歴史まちづくりなどに取り組む各地を、事例を通じて紹介します。 行政関係者向けには、事例を通じてより具体的な取り組み方を紹介します。	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 研究官	田中 椋	約1時間							○	○	行政関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクタ
48	グリーンインフラについて グリーンインフラは、自然環境が有する様々な機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方であり、多くの地方公共団体や民間企業で取り入れられている。本講座では、グリーンインフラがどのような機能を果たせるか、どのようなものが整備されているかについてグリーンインフラの整備事例を中心に紹介する。	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 研究官	金 甫 炫	約1時間								○	行政関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクタ
49	海岸の災害について 台風時の高潮や高波、地震の際の津波、海岸の浸食など、沿岸で起きる災害について、どうして被害が起きるのか、対策はどうなっているのか、等について紹介します。	港湾・沿岸海洋研究部 港湾・沿岸防災研究室 室長	本多 和彦		○	○	○	○	○	○	○			全国	○	パソコン用プロジェクタ
50	港湾と国際物流について 我が国の国民生活や産業活動などに大きく関わっている港湾について、その役割や構成施設、コンテナ輸送をはじめとした港湾貨物の輸送状況、船舶の大型化の動向、港湾の整備計画などの状況、関連する施策など、港湾と国際物流の現状や動向などについて、紹介します。	港湾・沿岸海洋研究部 港湾計画研究室 室長	安部 智久								○	○		関東周辺		パソコン用プロジェクタ
		港湾・沿岸海洋研究部 港湾システム研究室 主任研究官	小川 雅史													
51	滑走路等の空港の施設について 滑走路の舗装はどのような構造になっているのか、日々のメンテナンスはどのように行われているのか、地震に対してどのような対策をしているのか等、普段目に見ることができない滑走路等の空港の施設について紹介します。	空港研究部 空港新技術研究官	坪川 将丈								○	○		全国	○	パソコン用プロジェクタ